

山武稲作情報 第2報

(2022年6月6日発行)



山武農業事務所 改良普及課

TEL : 0475 - 54 - 0226

FAX : 0475 - 52 - 7914

山武地域の生育状況

5月半ばから6月頭にかけて昼夜温の差が激しく、日照時間の多い日が続きました。また、時折強い雨風も観測されています。初期生育が良かったほ場では、生育が順調にすすみ、中干しの適期を迎えています。一方、還元障害に加え、初期生育が停滞していたほ場では生育はすすんだものの、根の生育が悪く、茎数が伸び悩んでいます。また、気温差があったことや、日照時間が多かったことなどから、管内各地で藻類の発生が多く見られます。浅水管理を行い、根の生育を促進し、茎数を確保してから中干しを行いきましょう。

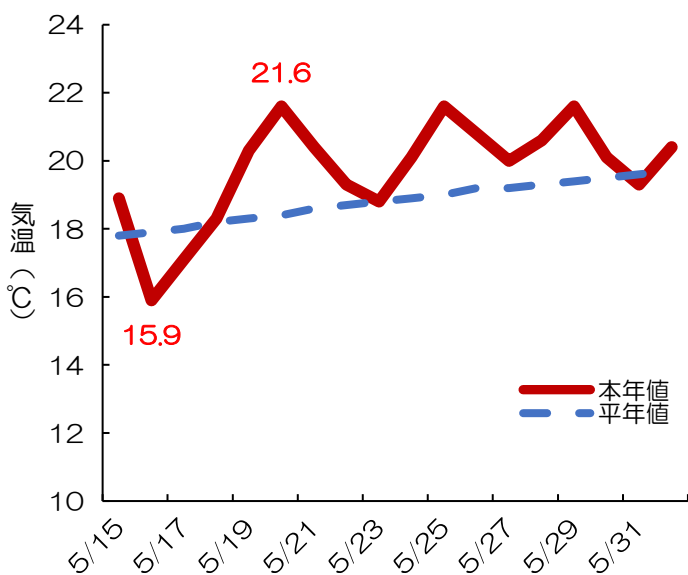


図1 日平均気温の推移 (アメダス、横芝光)

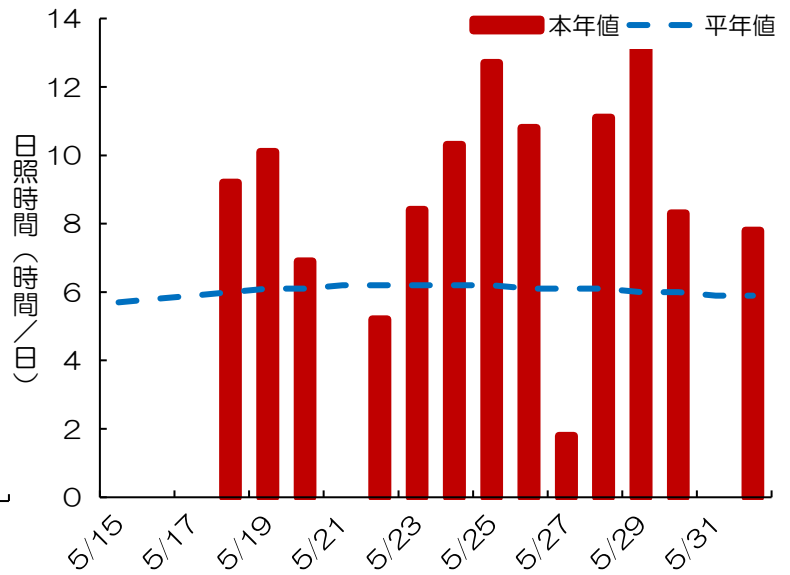


図2 日照時間の推移 (アメダス、横芝光)

中干し管理について

中干しをすることで、還元障害の被害を軽減し、根の生育を健全に保つことができます。また、根が伸長することで、倒伏対策にもなるため、梅雨前の晴れ間を利用して、中干しを行いきましょう。中干しの強さは、田面に亀裂が入る程度です。

中干しを行う適期は茎数で判断します。平均的な株の茎数を数え、目標茎数(水稻の生育状況と当面の対策 第2報を参照)に達していたら開始のサインとなります。

幼穂形成期予測 (6月2日現在) *

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	6/13	6/15	6/21	6/20
5/1	6/21	6/22	6/28	6/28
5/15	6/30	7/2	7/7	7/8

* 幼穂形成期とは幼穂が1~2mmになる時期のことを指しています。

* 予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

中干し期間中の雑草防除対策

植え付け後1か月が経過し、初中期一発剤で取りこぼした雑草が目立つほ場が見られます。この時期の雑草は、中期剤又は後期剤で対応できますが、雑草の種類や葉齢等によって使用する除草剤が異なります。農薬のラベルに記載されている事項を確認し、表示に従って使用しましょう。

また、中干し期間中の水田では、使用方法に「落水散布又はごく浅く湛水して散布」、「湛水散布又は落水散布」と表記がある剤を散布するようにしましょう。

落水状態で使用できる除草剤

クリンチャーバス ME 液剤（イネ科、広葉雑草）バサグラン粒剤/液剤（イネ科を除く広葉雑草）、ワイドアタック SC（イネ科、広葉雑草）、トドメ MF 乳剤（主としてノビエのみ）などがあります。

なお、両総用水の止水期間は**6月16日から6月30日まで**の予定です。

コラム① 両総用水 ～九十九里地域の農業 苦難と克服～

両総用水は、ただの用水路ではなく、九十九里地域における農業の苦難の歴史そのものです。これまでの地域の歩みを知り、未来を切り開く一助にいただければ幸いです。

九十九里平野は、縄文時代までは全域が海の底でした。その後、海岸線が後退し、海岸に平行する8列の砂丘群（現在の集落）と低湿地・湖沼ができ、大和政権時代ごろには現在のかたちになったとされています。平安時代以降、低湿地の一部を開発して水田にし、天水と周辺の湖沼から水を供給して営農していました。特に江戸幕府の成立以降、地引網漁や塩田開発の盛況による人口の増加により、新田開発が急速に進みました。

九十九里平野には大きな河川がなく、もともと用水不足でしたが、水源となっていた湖沼の大半が開発され、水不足に拍車をかけるようになりました。さらに、九十九里地域の多くは旗本領や幕府の直轄地であり、地域全体で対策を立てることもなかったため、江戸～昭和にかけて記録に残っているだけでも50回以上の水争いが発生していました。

明治に入ると、水害が頻発して排水改良への需要が高まっていた香取市佐原地区と、水不足に悩む九十九里平野の双方の問題を解決する方法として、両総用水の動きが盛んになりました。

農業者の安定した営農への思いと様々な方の努力が結晶して、昭和18年に国営両総用水事業がスタートし、昭和40年に完成しました。これにより、九十九里平野は安定して水が供給され、現在に続く全国有数の水田地帯に生まれ変わる基盤ができました。

現在、温暖化による天候不順や経営規模拡大に伴う作付期間の拡大に伴い、用水の柔軟な運用への期待が高まっています。今後も、地域の水源として受益者全体で効率的な運用を考えながら、より良い農業・農村づくりに両総用水を役立てていただきたいと思います。



写真1 完成当初の公平水路橋（東金市）



写真2 両総用水第1機場（香取市）

生育調査結果（6月1日現在）

*本年値の()内は平年比(過去10年、ふさこがね、アキヒカリ、夢あおばは過去2年)との差を示しています。

*CS値とは、カラースケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/株)	莖数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
東金市 5/3移植	本年	33.0(90%)	11.8(60%)	199(56%)	7.8(±0)	4.4(91%)
	前年	31.0	19.0	316	7.5	5.4

ふさこがね

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/株)	莖数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS値)
山武市 5/7移植	本年	27.0(89%)	17.0(93%)	312(109%)	7.5(-0.2)	5.0(97%)
	前年	29.0	13.6	212	7.3	5.2

ふさおとめ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/数)	莖数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS値)
山武市 4/27移植	本年	28.0(91%)	14.9(75%)	294(80%)	7.5(-0.9)	4.2(88%)
	前年	31.0	14.6	247	7.3	5.2

アキヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/株)	莖数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS値)
山武市 4/30移植	本年	45.3(113%)	13.2(57%)	243(60%)	7.8	5.0
	前年	40.0	18.7	340	-	-

夢あおば

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/株)	莖数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS値)
山武市 5/19移植	本年	22.6(76%)	5.9(105%)	107(113%)	4.1	-
	前年	31	5.1	85	-	-

農林総合研究センター 成東育成地による生育調査結果（6月1日現在）

*本年値の（ ）内は平年値との差を示しています。

*CS 値とは、カラスケールによる数値を表しています。（調査は葉色計(SPAD)を用いています。）

品種・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS 値)
コシヒカリ 4/25移植	本年	35.9(105%)	21.6(98%)	400(98%)	8.1(-0.2)	5.3(103%)
	前年	41.0	22.2	451	7.7	5.0
ふさこがね 4/25移植	本年	34.2(109%)	22.0(87%)	414(89%)	8.0(-0.5)	5.6(102%)
	前年	36.8	24.0	477	8.5	5.3
ふさおとめ 4/25移植	本年	35.4(110%)	21.9(82%)	412(83%)	8.5(-0.3)	5.5(102%)
	前年	38.2	25.8	526	8.6	5.2
粒すけ 4/25移植	本年	34.4(90%)	20.0(90%)	362(79%)	8.5(+0.2)	5.8(105%)
	前年	35.4	22.3	459	8.7	5.4
粒すけ 5/16移植	本年	24.1(98%)	6.1(77%)	106(65%)	5.8(-0.4)	-
	前年	24.3	7.9	164	5.4	-

・データの見方（調査基準について）

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。

